

カラスにトマトをやられた！！

定年後に家庭菜園を始めて9年目に入った。家から歩いて10分ほどの広さ30平方メートルの一区画。夏野菜が最盛期の今、スイカ、トマト、キュウリ、ナス、ピーマンなど例年になくよく出来ている。

スイカは苗を計4本植えた。赤の大玉、小玉、ラグビーボールのような形をしたもの、それに果肉が黄色の小玉である。最初の頃は天気の良い朝、畑まで出かけて人工授粉をしていたのが、猛暑が続くせいか今は勝手に果実がどんどんついている。蔓も葉も茂っているので正確な数はわからないが20個以上はある感じ。もう5個収穫しているから予想以上の出来具合と言えるだろう。特に大玉スイカは重さ10キロ近い特大がこれまでに二つも穫れた。年寄り夫婦二人の我が家では、半分か4分の1に切って冷蔵庫に入れておき、おやつはいつもスイカで2週間近く続いている。



トマトは中玉4本、小玉4本で色も形も違っている。果樹が丸形から楕円形や台形。色も赤から橙、ピンク、黄色など。こちらの方は並の収穫だが「スイカ泥棒」ならぬ、予想だにもしなかった“トマト泥棒”が現れた。いそいそと収穫に出かけると、なんと熟し切った中玉トマトが2個も地面に転がっている。拾ってみると半分ほどが食いちぎられている。お隣の畑のトマトもやられているようだ。

20軒分ほどの自家菜園がつながっている一帯だが、誰も農作業をしていない留守を狙って電線に止まっていたカラスが飛び降りてきて、自在に美味しそうなのを狙って嘴でつついているみたいなのだ。近隣には民家があり、石を投げつけたり鉄砲で脅すわけにもいかない。防ぎようがないので、取り敢えずの手段として完熟する前に“人間様”が手をつけるようにした。



キュウリは1日穫り遅れると30センチを越え黒太くなってしまふ。美味しいのは20センチ以下で先端にまだ花が残っている若いもの。味噌をつけてかじるのは堪えられない。ナス、ピーマンなども上出来で、余る野菜は近所へお裾分けや、都内に住む子供たちに送ってあげている。

見事に赤くなったトマトの列を見て畑仲間から「お上手ですね」なんて声もかかる。そんなときは「信州の百姓のせがれですから」「子供の時、農作業を手伝い、その経験が半世紀以上もたった今に残っているかも」なんてお愛想を返す。郷里の信州・伊那谷では長兄が今も広い田畑で汗を流している。

真夏の太陽が照りつけ、借地料、農具や棚などの材料費、肥料、種苗・・・と計算していくとスーパーで買った方が安上がりになることもあるが、太陽の下での農作業は健康にもよく野菜が育っていくのも楽しみだ。

孫達がスイカにかぶりついている写真や、お裾分けの際の褒め言葉に励まされて、暑いなか麦わら帽子をかぶり、また畑へと出かけていく。